

◆ 泌尿器科

■ 泌尿器科とは

泌尿器科は、尿に関連する診療科目です。

しかし、尿に関わると言っても、なかなかよくわからないと思います。

体調が悪いという状態も様々です。

そのため、尿に関することというのは少し後回しになりがちなのです。

頻尿であったり、尿が出にくいという症状があったとしても、病状が軽いと、別の訴えを医師に行きます。

例えば、体がだるいという自覚症状があるような時、同時に頻尿などの症状が出ていたとしても、即泌尿器科に行くということ少ないと思います。

内科などの病院に行った後、その病院の医師に行くように言われて初めて泌尿器科を受診するというケースも多いのです。

ただ、早期発見、早期治療を目指すのであれば、少しでも自覚症状がある場合は、泌尿器科に来院していただきたいと思います。

検査結果として問題がなければ一番ですが、中には癌など怖い病気が隠れていることもあります。早期発見、早期治療が大切です。



● 泌尿器科で診療する症状

- ・血尿：尿に血液が混じる、健康診断で尿潜血を指摘される
- ・頻尿：昼間トイレに頻繁に行く、尿が我慢出来ない
- ・夜間頻尿：夜寝ている時におしっこで何度も目が覚める

- ・尿漏れ：尿失禁、尿が漏れる
- ・血精液症：精液に血が混じる、精子に血が混じる
- ・腰の痛み・背中の痛み：腰痛、背部痛について
- ・尿に泡が混じる・尿が臭い
- ・おしっこが濁る
- ・おしっこが出にくい(出ない)
- ・おしっこの勢いが弱い(時間がかかる)
- ・おしっこするとき痛む(排尿痛)
- ・おしっこが残った感じがする(残尿感)
- ・何か下がってきた感じがする(違和感がある・骨盤臓器脱)

● 泌尿器科で診療する疾患

当院は下記の症状・治療に対応しています。

男性に多い疾患	女性に多い疾患	小児の主な疾患
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前立腺肥大症 ・ 前立腺炎 ・ 尿路結石症 ・ 過活動膀胱 ・ 前立腺がん ・ 膀胱がん ・ 包茎 ・ 性感染症 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 膀胱炎 ・ 腎盂腎炎 ・ 過活動膀胱 ・ 腹圧性尿失禁 ・ 切迫性尿失禁 ・ 骨盤臓器脱 ・ 性感染症 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀頭包皮炎 ・ おねしょ、夜尿症 ・ 停留精巣 ・ 尿道下裂 ・ 包茎 ・ 精巣捻転 ・ 膀胱尿管逆流 ・ 移動性精巣 ・ 尿失禁

● 女性の泌尿器科診療について

泌尿器科は「男性が診てもらおう科だ」と思っている方も多くいらっしゃるようですが、実際は女性でも泌尿器科の受診が必要な人は多く、泌尿器科では約4割が女性の患者さんです。男性女性に限らず、「泌尿器科の受診は恥ずかしい」と放置してしまいがちですが、泌尿器の症状には命に関わるような大きな病気が隠れていることもありますので、泌尿器科の受診はとても大切です。

● 泌尿器科で行う検査

検査	検査内容
尿検査	尿の中に菌やがん細胞がないか、赤血球や白血球がないかどうかを調べる検査です。膀胱がんや尿路感染、尿管結石や腎盂腎炎などの疾患が見つかる場合もあります。泌尿器科では必須の検査です。泌尿器科で診察、治療を行うのは、腎臓→尿管→膀胱・前立腺→尿道というように尿が作られ排出されるまでに通る臓器であるため、尿から分かる情報は極めて多くあります。
採血検査	採血検査では、前立腺がんの可能性(PSA 検査)、腎臓機能低下、体内の炎症の有無を確認します。また、隠れた糖尿病が見つかったり、炎症があって感染症が見つかったりする場合も考えられます。
超音波検査	超音波検査は、放射線を使わず、体に害がなく安全な検査です。体にゼリーを塗布して腎臓、尿管、膀胱を超音波で見ることで、前立腺や尿管、膀胱、精巣に大きな腫瘍や炎症がないかの確認、腎、尿管結石の有無や尿路閉塞、残尿の程度、腫瘍等の病変の有無などが分かります。
CT 検査	CT 検査は、わずかな放射線被曝はあるものの、詳しい情報が得られる検査です。組織の断面の画像を作り、病態の状態を観察できます。また撮影データを再構成し、横断面だけではなく、さまざまな断面の画像を作ることが可能なため、画像から得られる情報が多く診断に役立ち、尿管や膀胱の中に結石がないか、前立腺のがんが進行していないか、リンパ節が腫れていないかなどがわかります。
膀胱鏡検査	膀胱の中にがんや結石を疑った場合に行う検査です。また膀胱鏡検査では尿道狭窄がないかもわかります。当院では軟性膀胱鏡を使用することで、身体に負担やダメージが少ない検査となっています。

● 泌尿器科で行う治療

様々な症状に対して内服加療を行います。

症状を抑えるお薬(対症療法)や原因を治すお薬(根治療法)があります。

また、尿管結石に対しては内視鏡などビデオスコープによるステント治療、経尿道的碎石術(TUL)など程度により治療方法を選択しています。

各病院で得手不得手もありますので他病院ともしっかりと連携し適切な治療のご紹介も行っております。